

「平成 28 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」講義・演習の様子

I. 看護の動向と課題

○平成 28 年 8 月 9 日（火）看護の動向と課題 I



<受講生の学び>

- 学生時代に学習したことを、今また学習して、内容の意味が理解でき、自分の看護のあり方を考える貴重な時間でした。リフレクションでも、皆さんの話を聞き、共感できる事や自分とは違った経験をされている方もいて、とても良い学習をさせていただきました。
- 参加メンバーとの交流が図れ、他の施設の情報や、他の人の看護のエピソードなどが聞いて良かった。少人数の研修なので話しやすく、今後も交流が深められると感じた。
- 学生時代にタイムスリップし、改めて看護について学ぶことが出来た。経験を積んでから学ぶことで、更に実践と結びつけ、振り返ることが出来た。また、他施設で勤務している人の話を聞くことで、共感したり、理解を深めることとなった。
- 講義を受けるだけでなく自分の考えを述べる時間があり、他の方の考えを聞いて良かったです。働き始めてから「看護とは」と改めて考える機会もあまりなかったのですが、経験してからのナイチンゲールやヘンダーソンは思った以上に、自分の中にスッと入ってきました。

○平成 28 年 8 月 10 日（水）看護の動向と課題Ⅱ



<受講生の学び>

- 看護教育の現状については、大学卒業の看護師が現場で今後増えることでさらに質の高いケアの提供がされることを期待している。地域包括ケアシステムにおいて各々の現状を知る機会となった。
- 専門職としての看護師の役割を振り返る機会になった。療養上の世話について自律性を果たしているのか、今日の講義と実践の中でしっかりと考えていきたい。
- 現在近い将来の看護の動向の理解が深まり、今の当院の現状と課題も見えてきたように思います。また他の病院や施設の実際の取り組みも知ることが出来、参考になりました。
- 特定行為など看護師の出来る範囲が広がったことを詳しく知ることが出来ました。病院を取り巻く環境も変化していることを学びました。
- 2025年問題に関心がありました。きちんと内容を理解するのは今回が初めてでした。地域包括ケアの重要性を学ぶことが出来良かったです。健康寿命 up →医療費削減は常々思っていたところでした。
- 専門職として、改めて看護師の役割を確認することが出来た。（プロフェッショナルを目指す。）現在の変化している現状、他の施設の現状を知ることが出来た。
- 地域包括ケア病棟勤務のため共感できたり、内容に大変興味がわきました。何となく毎日勤務していたが、なぜ地域包括が必要なのか改めて学習し、今後今までとは違った気持ちで勤務できるような気がしました。

Ⅱ. 根拠に基づく看護

○平成 28 年 8 月 16 日(火)看護過程①



<受講生の学び>

- 学生の頃に勉強した、看護過程を思い出し、振り返ることが出来た。久しぶりに頭を使い勉強出来、充実した授業でした。今後の新人指導に役立てることが出来ると思います。
- 基本を再度学ぶことで今の自分に足りない部分が明確になりました。ゴードンは当院では使用していないが、内容を学び、情報を整理し、看護実践につなげることの意義を学べて良かったです。
- 看護過程を学ぶことで、今の学生のアセスメント力の強さを感じました。卒業時までの到達目標や経験すべきことが決めてあることと、その内容を知ることが出来ました。
- 今回ブラッシュアップに参加させて頂く一番の目的・目標でもあったので、とてもやりがいのある講義でした。シートに落とす作業は目に見えて行なえるので、実際に持ち帰り、勉強会としてやりたいと思いました。
- 根拠に基づく看護、アセスメントを再確認出来、実際に作業しながら関連図まで作成、練習出来、自分の勉強不足を知りました。

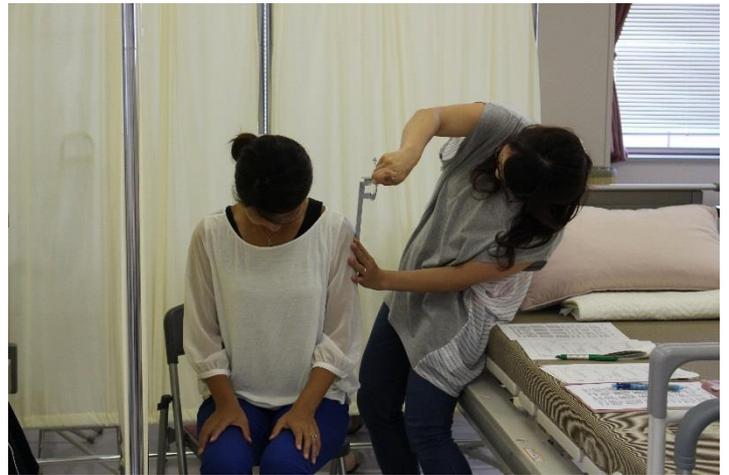
○平成 28 年 8 月 16 日（火）フィジカルアセスメント



<受講生の学び>

- 基礎を振り返ることが出来て良かったです。日々の業務に活かしたいと思いました。
- 「フィジカルアセスメント」最近よく耳にしていたが、具体的に理解できた。現場で行っていた事、打診、聴診、視診、etc. 改めて確認出来、現場ですぐ使える内容でした。
- 経験や慣れなどで、当たり前になっていることも、改めて、どういったことを目的にどういった根拠で、と思い出すことが出来た。重症であれば呼吸数もじっくり観察するが、安定している場合は重視していないことが多いので、基本に基づいてしっかり観察していくべきだと思った。
- 現場でつい経験知のみで動いてしまうことも多々ある中で、きちんとしたアセスメント、根拠をしっかり見ることの重要性と再認識しました。フィジカルアセスメントと経験知と上手く合わせながら実践していきたいと思いました。
- ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション構成を学ぶことが出来、より専門的に現場で実践出来、勉強になりました。問診の観点や、触診の効果的な方法など聞けて、勉強になりました。
- 系統的に、情報収集していくことを知ったこと、「頭からつま先まで」「ドアノブクエスチョン」はとても大切な質問だと思った。これが出来るように実践していきたいし、広めていきたい。

○平成 28 年 8 月 16 日（火）フィジカルアセスメント（運動器系）



<受講生の学び>

- 実際に可動域を測定して、数値だけってみるより、実際に行なっただの数値とでは違って感じた。思ったよりも到達していなかったりして、測定する側も基本軸を保つのが難しかった。数値にすることで明確な情報を共有できると思った。
- 関節可動域を実際に測定することで、測定方法や関節可動域の参考値も、身をもって体験出来理解することができた。リハビリスタッフとの情報共有に役立てることが出来ると思う。
- 観察の視点、方法、実施と一緒に学ぶことが出来、すぐにでも実践していきたいです。リハビリスタッフとの情報交換に役立てたいです。
- 実際に演習を行なうことで、可動域の測定方法を知ることが出来た。紙で見て学ぶのと、実際に行なうのでは全て違っていました。現場ではこのような根拠に基づいた看護ケアや日常生活援助は出来ていなかったなので、活かせるようにしたい。
- 職場で患者さんのアセスメントをする際、身体の動きは視覚だけで判断することも多いですが、実際に測定し数値化し、評価することで統一されたわかりやすいものになると改めて思いました。ナースコールの位置をはじめとした、患者さんに適した療養環境を整える上でも重要なことであり、何気なくやっていることでも科学的根拠に基づいているのだと再確認出来ました。
- 関節可動域の測定では、実際に測定してみても基線がどこになるのか、その部位ごとに違うので難しいと思った。しかし、リハビリスタッフと情報共有する意味も考えると、患者さんの上肢・下肢の可動域を知っておくことは必要だと思った。

○平成 28 年 8 月 17 日（水）フィジカルアセスメント（循環器系）



<受講生の学び>

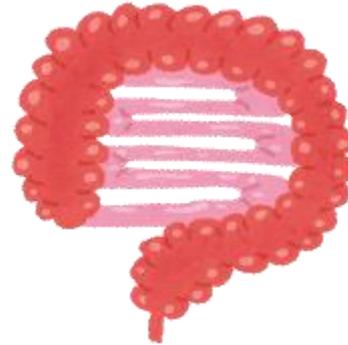
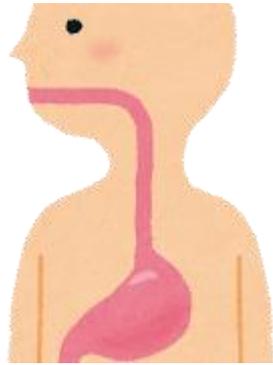
- 頸静脈、頸動脈の観察や中心静脈圧測定法については、研修後現場で早速実践できると思った。
- 心臓の解剖や部位の復習が出来、久しぶりに学生に戻った気分でした。普段出来ない演習をすることができて、生の身体で練習でき、きちんと部位を確認し確実に心音を聴くことができ、嬉しかったです。
- 頸部の視診等も、まじまじとすることがないので良かった。フィジコを使っての心音、言われなければ「あー」みたいな感じだったが、難しかったです。勉強になりました。
- 心不全の方は入院されてくることはあるが、観察、アセスメントの幅が広がり、実践し、スタッフにも広げていこうと思いました。音の聞き分けが難しく、耳を鍛えていかないと!!と思いました。
- ほぼ初めてのように実施する頸静脈の視診、中心静脈圧であったり、心音も普段あまり聴取することがなかったので、実際に自分で観察することで身につけられた。心音では異常音の区別が難しく、臨床であったら気づかない事が多いだろうと思い、まずは正常音に慣れて、異常に気づけるようにしたい。
- 診る視点が増えたことで現場でより細かいアセスメントにつながり、患者さんのケアにつなげることが出来ると思いました。教科書上では知っている事でも、自分の身体やフィジコを聞いたことで、より実践的になるし、その反面、難しさもありました。耳で聴く、異常を早期に聞き分けられるような練習や毎日の観察が必要だと感じました。
- 今まで頸動脈の触知だけを行っていたが、今回頸静脈の拍動を観察することで、心不全を疑うということも知識として増えたので、今後の高齢者の観察ポイントに加えていきたい。
- フィジカルアセスメントの手技を知ることが出来、大変勉強になりました。解剖生理の所に関しても、再確認が出来、知識を深められました。演習の時間も有意義に過ごせました。

○平成 28 年 8 月 17 日（水）フィジカルアセスメント（呼吸器系）



<受講生の学び>

- 肺の解剖生理を徐々に勉強することができました。異常の呼吸音「副雑音」の種類と音が聞き分けられて勉強になりました。少しは自分の知識として身につけられたと思います。勉強になりました。打診や聴診を実際できたので、実践で活かしていきたいと思います。
- 現場での経験と照らし合わせながら講義を聞いて、わかりやすかったです。基礎知識を改めて学ぶことが出来て、大変役立ちました。
- 呼吸音、あまり聴取しないので、すごく勉強になった。（施設というのもあり…）捻髪音、水泡音の聞き分けが難しかった。
- 曖昧だった副雑音の分類や特徴、聴診の仕方を学び、少しずつはっきりしてきたように思いました。なぜ、そのような音が聴こえるのか、解剖整理から復習することができて良かったです。
- 現場で毎日行っている事だったので、基本を学びなおすことが出来ました。学んだ方法でこれからの現場ですぐに活かせると思います。
- いつも現場で聴いていた肺音について、聴取の正しいやり方、音の違いが理解できた。フィジコを使った演習でより現実的に理解できた。カルテに記入、入力していた言葉や表現が違っている事もわかった。
- 呼吸音を聴取し、看護記録には記入していたが Dr へ報告することが出来ていなかったもので、今後は教えて頂いた知識と手技を活かして報告が出来るようになります。



<受講生の学び>

- 腹部の打診、聴診を演習でき、自分の音や相手の音を聞くことが出来た。スクラッチ音等、初めての実践で音の区別が付き感動した。患者さんに対しての観察の幅が広がった。
- 視覚的に知識を得てから、演習ができたので、理解が深まって良かったです。
- 腹部を聴診、打診することは無いため、今後は「腹部の痛み」等あった際は取り入れていきたい。施設ではなかなか自ら痛いなど訴えられない利用者さんが多いため、今日は本当に勉強になった。
- 聴取は毎日行なっているが、なかなか打診は行なっていなかったもので、音の違いを再確認できた。肝臓のスクラッチテストは、実際にやってみるとすごく分かりやすく、簡易的に肝臓の大きさを予測できるので、今後実践していこうと思う。
- お互いの腹部触診、聴診、打診し、音を確認することが出来た。現場の患者さんをイメージしながら、講義を聴くことが出来、わかりやすかった。
- 打診はあまり行なっていなかったのですが、今回実際に行なってみて、濁音と鼓音の聞き分けと触れた感覚をつかむことが出来た。腹部を観察する時は、腹部体表区分に沿って行なっていこうと思いました。
- 実際に人形を使い、音が聴けて参考になりました。お互いに演習をすることは実践する上で大変勉強になります。解剖整理の記憶もよびおこされ、また一から勉強しなおしたいと思います。
- 消化器の患者さんがよく入院されてくるので、普段何気なく観察を行なっていたが、根拠を基にフィジカルアセスメントを行なっていく考え方、手法を学ぶことが出来、すぐに実践に活かしていきたいです。

○平成 28 年 8 月 18 日（木）フィジカルアセスメント（事例）



<受講生の学び>

- 普段何気なく行なっている事がフィジカルアセスメントであり、その中でも普段は 1 つの方法（例えば聴診、視診）だけ見ていたりしたところもあったので、事例を演習したことで学習したフィジカルアセスメントをフルに使ってみていくことで、より状態がわかると実感した。
- 日々観察している同様の内容でも、フィジカルアセスメント、根拠を考えながら、観察しケアに結びつけるのでは、大きな違いがあり、有効なケアにつながると感じました。便秘 1 つでも様々な視点で見ることにより、その患者に適したケアをおこなうことが出来ると改めて思いました。
- 事例を用いてアセスメントし、視点・ポイントをまとめ、Dr へ報告する前までの看護ケアを考えて…、いつもここまで考えずに行なうため、考える幅が広がった。今後はまず、便が出ないからといって、すぐ薬・Dr へ報告ではなく、もっと自分で出来ることを行なってから、とつくづく思った。
- 今まで勉強してきた成果を出すフィジカルアセスメントの実践でしたが、筋力測定やバレー徴候など、観察すべきところが欠けており、もう一度復習し自分のスキルに加えたいと思います。すごく難しかったが、グループで意見を出し合うと自分で気づかない所も気が付き、とても勉強になります。
- フィジカルアセスメントをして看護計画に活かすことの大事さを再認識できました。
- 事例についてグループでフィジカルアセスメントを行ない、自分の考え以外にも他の人の意見を聞くことで、アセスメントの幅が広がった。



<受講生の学び>

- ・ 1 つの事例についてたくさんの情報を整理していくことは難しいと思いましたが、考え方を学び自分の頭で少しずつ考えを整理することが出来ました。言葉を文章にして目に見える形にして、統一した考え・ケアが出来るようにして行けると思いました。
- ・ 関連図が難しかったが、グループで話す合う事により、違う視点もあり勉強になった。看護診断（症状・徴候・関連因子）難しかったので、もう一度振り返り、学習したいと思います。
- ・ グループでデータベースから関連図が作成でき、他の人の意見や考えでなるほどと思うことが多かった。他の人の作った関連図も様々で楽しかった。頭をフルに使った授業で充実出来ました。
- ・ アセスメントは基本だと改めてわかった。関連図は学生以来だったので、学生の頃はよく分からず、病態メインの関連図になり、シンプルなものだったが、現在ではそれぞれのパターンも関わって、関連図の矢印が様々なところにつながっていたり、現在の問題だけでなく転倒などの予測される問題もあがった。学生の頃よりも理解できる分、関連図は楽しく取り組めた。
- ・ 現場でのモヤッとしていた看護計画までの一連の過程がはっきりして、とても勉強になりました。
- ・ 普段の通常の業務の流れで看護計画を立案しているため、個別でじっくり考えて、看護過程を展開していけるよう今後病棟全体で検討していきたいので、とても参考になりました先々の問題ばかり考えてしまい（そういう傾向にある）、現状の問題をしっかりととらえることからやらなくてはいけない、と改めて感じました。情報、関連図がもっと書けるようになりたいです。
- ・ 看護過程と診断の内容が詳しく分かり、とても充実していました。特に看護過程で根拠を知るのがこれからの看護に必要となると強く感じました。

○平成 28 年 8 月 23 日（火）高齢者の看護



<受講生の学び>

- ・ 普段、高齢者を対象として看護を行っているが、意識を持って関わる事が不足していたように思われます。何気ない言動や行動にもっと責任を持ち、スタッフ間で統一して関わらなければいけないんだという事も改めて感じる事ができたので良かったです。
- ・ 勤務している現場では、高齢者の方ばかりで、こういった事が原因で症状が出現してくるのか、アセスメントの重要性など再確認できた。退院支援では、本人を除いたカンファレンスが多く、家族の意向を重視してしまうことがほとんどで、その影で本人は自分の思いをおさえているのだと考えさせられた。
- ・ 高齢者の特徴やケアについて学ぶことができた。特に廃用症候群の予防については、私たち看護師がベッドサイドでできること（ROM運動、ポジショニング、栄養面）がわかり、実践しようと思った。高齢者看護には、退院後のその人の生活を意識して関わる事が重要であり、その人らしく生きていけるよう、支援することが大切だとわかった。
- ・ 高齢者を看護するにあたって、どの点に注目しアセスメントするのか。退院後はどのような生活を目指すのか。を考えながらケアを行うことの重要性を理解できた。
- ・ 高齢者のケアは、経験値だけで、包括的にアセスメントともっていく事がなかったので、今回、細かくアセスメント内容がわかり、今後の看護ケアや看護計画に活用したいと思います。アセスメントの事例を実際に行ってみたいと思いました。細かく気づいたり、今まで気付かなかった問題もあがりました。「自律」と「自立」を意識しながら、看護していきます。

○平成 28 年 8 月 23 日（火）認知症の看護



<受講生の学び>

- ・看護側と認知症患者の「ズレ」について、納得のいく解りやすい講義が聞けたので良かった。「身体拘束」についても、他の病院の方々なども悩む内容なのだなと同感しました。
- ・BPSD単独でみていたり、「ズレ」があると思っても、重視していない関わりを行っていた。講義を受けて考え方が全く逆が変わった。病気だと認識して、こちら側から近づくこともできなかったため、これからの関わりを変えて行こうと思った。すごく参加して良かったと思いました。
- ・認知症の患者さんへのアプローチの方法が細かくわかり、実践に活かしていきたいと思います。全ての看護ケア、倫理につながると思います。認知症キャラバンメイトの活動は知っており、オレンジリングを配っています。金山でもキャラバンメイトの方は大勢います。
- ・認知症看護について、現場に沿った内容で、とても充実した研修でした。
- ・認知症の患者さんと、スタッフの「ズレ」がどこにあるのか、認知症の人の身になり考えなければならなかった。良いコミュニケーションをとるには、自分の感情コントロールも必要だとわかった。
- ・身体拘束についても、今からできることがわかり、即、実践にうつしたいと思った。
- ・認知症の患者さんに対して、近づいて寄り添って看護しないといけないと学びました。身体拘束に対しても、「目からウロコ状態・・・」今後の課題にしたいと思いました。

○平成 28 年 8 月 24 日（水）災害看護



<受講生の学び>

- ・演習を通して、実際にトリアージタグを記入することが出来たので良かった。
- ・記入してみないとわからない事が沢山あると気付かされた。
- ・災害が起きた時は、必ずしも自分が助ける身だけではなく、被災している場合もあることを再認識しました。
- ・トリアージの演習もなかなか機会がないことなので、実際にタグを記入することができて良い学習となりました。
- ・災害看護・トリアージ等について、再確認・新しい知識を得ることができました。実際に演習もさせていただき、知識を確認することもできました。
- ・もう少し時間があり、トリアージタグの勉強をしたかったです。
- ・災害看護は奥が深く、何も無い環境から医療看護をしていくのは、強いチームワークと前もった訓練が必要になってくると思います。私は院内のみで、外での活動は行った事がなかったため、とても刺激になりました。
- ・災害看護は学習していなかったため、漠然としていたため、なかなか難しかった。災害の種類・場所・時期でできる看護が違い、とても幅広いのだと学んだ。また、災害看護と聞くと、初期治療ばかり発想してしまっていたが、元の生活に戻るまで看護が継続されることに気付いた。
- ・災害看護について、あまり知識がなかったが、トリアージの方法、判断について、実際に記入することで、短時間で判断することの大切さがわかった。多職種での災害チームがあることも初めて知った。

○平成 28 年 8 月 24 日（水）緩和ケアの看護



<受講生の学び>

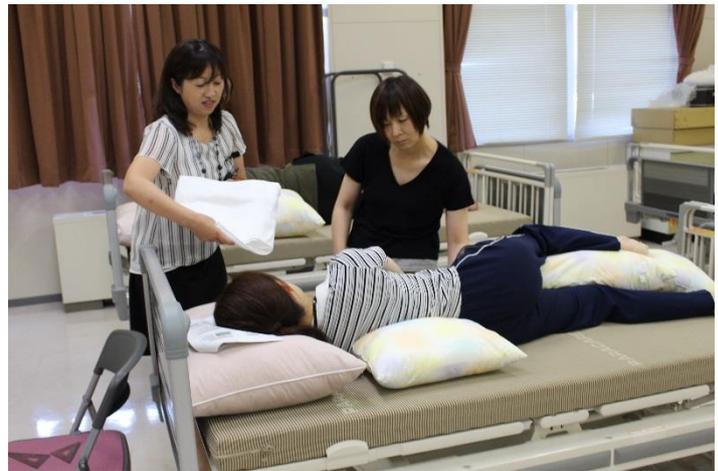
- ・緩和ケア=がん患者の終末期ケアとして捉えていたが、そうではないのだと思いました。忙しい時間も5分だけでも患者さんの隣に座り話を聞く、ということを行い、患者さんの心に寄り添っていきたいと思います。
- ・モルヒネの換算の仕方が学べた。
- ・とても興味のある内容でした。欲をいえば、もう少しいろいろ聞いてみたいと思いました。日々行っている看護の意味をきちんと考えると、相手だけでなく自分もやりがいや気持ちのモチベーションが違って来るなと感じました。
- ・終末期とエンゼルケアは、とても勉強したい看護でした。具体的なケアや処置方法が聴け、勉強になりました。
- ・緩和ケア・終末期・全くと言っていいほど知らなかったので、勉強になりました。
- ・緩和ケアの時期は、診断された時から始まるという事を学んだ。緩和=終末期というイメージだったので、一般病棟でもできるケアを学びながら実施していきたい。
- ・終末期は関わる事が多いので再確認できた。

○平成 28 年 8 月 25 日（木）褥瘡ケアの看護



<受講生の学び>

- 実際にポジショニングを試してみたり、されてみたりして患者の体験ができて背抜きすることで臥床していて本当に楽になったのと、支持面が広がった。是非、病棟でも実施していけば患者さんの安楽につながると思う。
- 褥瘡ができる前の予防がやはり大切であることを再確認できました。
- DESIGN-Rの評価・点数の付け方が詳しくわかり、勉強になりました。“迷った時は、悪い点数”実践でいかしたいと思います。
- 体位変換のひと工夫で、安楽な体位保持ができるということを演習で学びました。
- 演習にて実際に患者体験もでき、これからの体位変換も患者の負担を考えて行っていきたいと思いました。今後の看護に活かすことのできる講義でした。
- 体位変換の具体的な手技の演習ができた事。今までの知識・手技では、不足していた事や患者さんに、今まで自分が患者様に苦痛な時間と恐怖しか与えていなかったことがわかってショックだったのもありましたが、すぐにでも病棟にもち帰り、伝えたい内容でした。
- 特に、ポジショニングの演習では、実際に圧がどこにどのくらいかかって苦痛なのか、圧の分散を行うことで、こんなに楽になるのかが身をもって知ることができた。さっそく帰ったら、現場で実践・スタッフへも伝達していこうと思った。
- 褥瘡ケアは、わかっていそうでわからない所だったので、本当にわかりやすく勉強できました。“まずは予防から”で、今後は体位変換したあと、背抜きをして看護していきたいと思った。



<受講生の学び>

- 側臥位で食べるという考え方は全くなかったので、実際に経験できてとても参考になったと思います。私の病院にも、食事がアップしていかない患者が数名おり、帰ったら今回学んだことを参考に、いろいろ試してみたいと思いました。
- 完全側臥位で食事摂取することができることを学びました。今までは、寝ながら食べるなんてことは発想がなかったのでびっくりしましたが、自身で体験してみて、飲み込むことができました。病棟に戻り、対応できる方がいたら、やってみようと思います。
- 誤嚥に対する対処方法を多数聞けて、勉強になりました。毎日のことで、入院生活にかかせない食事と栄養はなるべく誤嚥のない生活を患者様におくっていきたいと思いました。
- 演習で、口内乾燥したままの状態での体験や、正しい飲み方を理解できた。
- STだけに頼らず、NSの判断・観察力が大切なのだとわかった。
- 解剖が復習でき、わかりやすく映像で見られたので良かったです。
- 実際に演習を通して、患者体験ができ、ケアを見直すことができたので良かったです。
- 実演もあり、見た目と体験の違いがあり驚きました。「食べられない!!」とするのではなく、姿勢などから見直していきたいと思います。
- ST任せにしていたところもあったので、私たちも十分理解したうえで、介助していく必要がある。STとの連携をとり、統一した介助方法や安全に食べていただくようにしていかななくてはならないと改めて学んだ。



<受講生の学び>

- 高齢期の療養指導について、QOLを考慮し、本人にあった血糖設定をし、援助・指導していくことが、大切だと学びました。糖尿病の患者さんの心理状態や心のケアも必要だと再確認しました。
- 糖尿病について、広く再確認することができました。施設でも、糖尿病の方の対応が難しく感じる事がありましたが、質問できて良かったです。
- 基本的な糖尿病の知識と復習ができたこと。新しい治療薬や治療法を学べた。
- 具体的な事例に基づいて、介入の仕方など多職種連携のあり方を学べた。
- 高齢者の方に限らず、個々の生活状況に合わせて指導を行っているので、復習というより、指導にあたるうえで把握しておくべき事等を深く学ぶことができた。
- 糖尿病について復習することができた。療養指導についても、各職種の視点からアプローチの必要性が理解できました。
- 糖尿病の基礎を振り返ることができ、確認できる授業となった。事例を通して、現場でもよくある症例であり、参考とすることができた。

○平成 28 年 9 月 16 日（金）リハビリテーションの看護



- 実技を交えての講義だったので、とてもわかりやすい内容でした。実際職場でもすぐ活かせそうです。
- 現場でのトランスファーの方法の見直しをすることができ、現場で実践していきたいと思います。
- 拘縮のある患者が多いので、できる所からナースも拘縮予防に意識して努めていきたいと思います。
- トランスファー（移乗）の演習では、現場で苦労していた介助がコツを掴んだことで楽にできることが身をもってわかることができた。関節可動域の実践を行い、実際に明日から患者さんに実践できると思った。なかなか受けられない研修で、貴重な体験ができた。
- なるべく看護師の負担がないような移動方法がわかり勉強になりました。移動にもポイントがあり、ポイントをおさえればスムーズな移動ができ、患者様にも負担にならないと思います。実践に活かしたいと思います。拘縮の予防とケアは、病棟の患者様に即実践できる内容でした。
- 今まで行っていた移動の方法だと、利用者さんに恐怖を与えていたことがわかりました。可動域訓練も行うことに恐怖をもっていました。今後は少しずつ行っていきます。
- 実践する事でよりわかりやすく、私たちも実際に出来ると思った。相手も自分も安楽・安全に行うことができて学べた。すぐ、実践で行えることばかりで良かった。
- 姿勢と動作の基本を理解することができた。（寝返り・起き上がり・車椅子への移乗）
- 介護する際は、基本動作を意識し、体重移動と回旋の動きを理解して行うことが大事であることを知り正しい介護の方法を学ぶことが出来た。
- 関節拘縮予防について、四肢の運動方法やポジショニングを学ぶことが出来た。

○平成 28 年 9 月 1 日（木）急変時の看護



<受講生の学び>

- 急変時の対応として、AEDの使用が重要だと強く感じました。日常の業務で行っていることも、少し意識して評価したり、シミュレーションしたり、振り返ることが大事であると、そしてスタッフで共有することが後につながると思いました。I SBARC（アイエスバーク：状況報告の方法）は、日頃の訓練が大事で、意識してDrへ報告していきます。
- 蘇生など、忘れていた点が多くあり、もう一度学習することができて良かった。
- 評価をし、次につなげることをしていなかった事に気が付けた。
- ただテキストで読み合わせ的な講義ではなく、頭と体を使う講義で集中して受けることができました。
- シミュレーターを使って具体的な事例に基づき演習でき、その場でフィードバックをした事により、できなかった点について再確認することができました。
- 忘れていた部分や、不十分な手技・知識を学ぶことができ、復習・新たな学びにつながりました。
- とても内容の濃い研修でした。CPR（心肺蘇生法）・AED（自動体外式除細動器）の使い方の復習や、事例を通し、看護師の判断でその人の生命や予後が左右されるのだと実感した。シミュレーションでは、なかなか思い通りにいかず、トレーニングが必要だと感じた。BLS（一次救命処置）については、今後も定期的に研修等で振り返り、衰えないようにしたい。
- 演習では、緊張してそれまで学んで得たことが、一気に真っ白になってしまった。急変にあたらしたら、また同じようになってしまうのだろうなと思いました。そのためにも、3~6か月に一度は同じく練習しなければいけないと思いました。医師への報告の仕方の“I SBARC”を、今後なるべく使って、手短・明瞭に伝えられるように努力していきたいです。
- 今まで無意識のうちに情報を集め、判断していたが、ABCDに沿って情報を得ることで、もっと確かな状態がみえるようになった。実際に動いてみると、頭ではわかっていたのに出来ていないことばかりで、先生の言う通り、繰り返しやることで、覚えていかななくてはならない。ABCDで観察するくせを付けて行こうと思った。

Ⅲ. 地域密着連携

○平成 28 年 9 月 2 日（金）地域医療連携



<受講生の学び>

- ICTでの県の推進が理解できて良かった。自分の地域の特性を振り返る事ができて良かった。それぞれの病院や施設の役割を理解し連携していくことが大切だとわかった。
- 地域医療連携、地域包括ケアについて最も理解しておきたい分野だったので、漠然と理解した中で包括病棟に働いていたんだなと考えることもあった。「自分の役割は何か」をしっかり持って、他職種との連携、患者様にとって一番良いあり方を支援していきたいと改めて思った講義だった。
- 「地域医療連携」という言葉を漠然と理解し、実際に現場でも実施できていたと思っていましたが、自分自身の意識の持ち方が足りなかったことがわかりました。スタッフ間でも浸透させたいと思いました。
- 地域包括ケアの重要性を学ぶことができました。多様化する現代において、ICTの持つ役割が大きいことがわかりました。村山地方は包括ケアが遅れているようですが、まずは身近なところから、連携をとっていきたいと思いました。
- 山形県は少子高齢化が進み、全国でもモデルとならなければならない状況で、現在の自分の病院はどのようなのか、他の地域はどのような連携地域包括推進を行っているのか知ることができ、知らないことも多くあり、学びとなった。自分の地域での連携手段など、確認して切れ目のない看護につなげたい。
- 今回初めて地域医療に関して講義を受けました。わからないことだらけでしたが、1つ1つ理解を深めていく必要性を感じました。今まであまり地域に目を向けてこなかったため、今後は自分の住んでいる所も含めた広い範囲での医療はどうなっているのかも考えてみたいと思いました。
- 地域を知るという事が、これからの小中病院・診療所に必要だと強く感じました。ICTがこれからは強みになっていく時代で、どんどん活用し時代にのりたいです。地域ケア会議の重要性を再確認しました。
- 地域包括、地域医療連携の概要、基本的知識を学ぶことができました。人口動態や国の動き、加えて自施設のある町の動向を理解し、何が必要とされるのか、必要な看護は何かを自分の言葉で伝えられるように、学びを深めていきたいと思えます。
- 他の病院・施設の特徴を具体的に知ることができ勉強になりました。

○平成 28 年 9 月 8 日（木）連携のためのスキル



<受講生の学び>

- 他職種の先生からの講義は新鮮で、新たな視点で考えることができた。
- 話を聞くだけでなく、ワークもあり、楽しみながら、今後に活かせることを学ぶことができて、とても良かった。
- ほぼ、グループワークが多かったですが、楽しく講義できた。ブラッシュアップに参加して、顔はわかるけど、名前がなかなかわからないなどあったが、自己紹介等行い、楽しく面白く覚えることができた。
- グループワークで次々と考えていく過程が、とても新鮮で面白かったです。考えを整理すること、他の人の意見を参考にし、新しい考えを生み出す作業に少しずつ慣れてきたように思います。
- ファシリテーターの役割について理解できました。また、ワークショップでのルールなども理解することができました。ファシリテーターの意見を引出し、促進させる、という役割は、今後機会があれば実践したいと思います。
- 実際にグループワークをして親和図法を使ってできた事は、貴重な体験でした。
- 今日の研修は、チームで課題を解決することが多く、AMのマシュマロチャレンジから、PMのテーブルワークまで、グループで話すことがほとんどで、いつもなら不得意な分野だったが、とても楽しく有意義に学ぶことができた。現場で行っていきたいと思った。
- 考えていくうちに、現実化していくにはどうしたらいいかとワクワクするような思いだった。実施できそうなものもあり、前向きに連携をはかろうと思うことができた。
- 初めて聞く内容で、とても興味を持ちました。医療機関以外の方から見たこれからの在宅医療の在り方等を講義で受けられ、とても新鮮で新しい発見がありました。
- 新しい言葉や考え方に触れ、グループワークで皆さんの発想や考え方にも触れ、とても楽しい勉強になりました。日々の実践に現場につなげていきたいと思います。
- ブレインライティングで、これからの地域や施設の連携の、具体的ないろいろなアイデアを聞く良い機会を得ることができました。
- 演習がたくさんできてよかったです。ファシリテーションとリーダーの役割がわかり、勉強になりました。

○平成 28 年 9 月 9 日（金）連携のためのスキル



<受講生の学び>

- 様々なゲームを通して、グループ内での関わりの中で、改めて気づいたことが多かった。自分のコミュニケーションタイプを知ることができた。
- ゲームを中心に講義が進んでいき、体験しながら学ぶことができました。
- 演習やゲームを通して、実際に感じる事ができたので、わかりやすかったです。
- 承認＝誉めるのではなく、感じたことも伝えることだというのがわかりました。例えば、相手が失敗した時にでも、そのことで「私」はどう感じるのかを伝える事なのだと学びました。
- コーチングスキル（質問・承認・傾聴）を学べて、もっとコミュニケーション力が上がればいいと思いました。傾聴に心がけ、実践に活かしていきたいと思います。
- 自分が一回りも二回りも大きく、広く、あたたかくなれた時間でした。自分自身、自分をとりまく全ての人の可能性を信じて、これからも前に進んで頑張っていきたいと思います。
- 実際にゲームを通して感じる事・気づきが多く、大変勉強になりました。プライベートや仕事で活かしていきたいと思います。
- 目標に挙げた聴き上手になれそうです。ただ聞くだけしか今まではできてなかったと気付いた。言葉がなくても伝わるのがわかったが、言葉がないことも、傾聴することもすごく疲れを感じた。相手が誰でも、そのままを受け入れようと思った。
- ゲーム・演習の多い研修で、とても楽しく有意義な研修でした。相手を承認すること。人は誰でも可能性があること、とても印象に残りました。現場だけでなく、今後の自分の人生で、家族・友人など、様々な人たちとの良いコミュニケーションが取れるよう、活用したい。
- ゲームをしたり、グループでピースをつくったりと、皆で楽しく講義することができた。一言でコミュニケーションと言うが、難しいなあ~と思った。



<受講生の学び>

- ・地域包括について、他の病院の方との情報交換ができ、自分達にないもの、良いものがわかった。今後の課題も山積みで、皆さんと同じ思いだったり、共感できたことも多く、学びとなった。
- ・他病院の現状について知ることができて良かったです。改善策も、グループで考えることができ、いろいろな考えを意見交換できてよかった。
- ・考えて、そして作業するって疲れましたが、学びも多く良かったです。
- ・グループワークすることにより、自分の意見・考えを整理することができました。実際の実践に近づくよう、今後に繋げていきたいです。ICTのみなさんともやり取りがスムーズでとても良かったです。
- ・各病院様、だいたい同じ内容で課題があったことを理解できました。
- ・他の病院での取り組みや、課題を共有できた。今後の課題がはっきり見えたので、活用できれば良いと思った。また、役割などもきちんと理解していないと連携にうまくつながらないと思った。
- ・他の施設の現状がわかり、今後の包括のあり方が少しずつ分かってきた感じがします。皆と話し、自分に一番大切なことは、知識であると実感しました。
- ・実際にグループワークを行うことで、いつの間にかやらファシリテーションやコーチング・傾聴等のコミュニケーションを取っていた気がします。大変勉強になりました。
- ・山形県の保健医療連携の現状を知ることができて良かった。



<受講生の学び>

- 他の業務の定義を知ることができた。
- チームで動けて意見を共有できよかったです。
- タイプの違った事例を皆で検討することで、自分の考える以外の事がたくさんあり、見方を変えたりすることで、様々なものが見えてくるのがわかった。また、やはりチームで連携しないと自分一人では何も進められないということが再認識できた。
- 事例検討では、自分のグループだけではなく、他のグループの対策を考えるというワーク方法は初めてで、勉強になりました。
- 作業療法・理学療法について、詳しく分かりやすく勉強・講義をきくことができました。
- OT・PTの目指すところは何かが理解でき、患者さんへの支援では、重要な役であり、NSとの連携も重要であると改めて思った。グループワークでは、具体的な事例を様々な視点からみることができ、自分の視野も広がった。
- 普段知らなかったリハビリの事を学べ、お互いの相互理解・協力の大切さを学びました。
- 理学療法士・作業療法士の役割を改めて知ることができ、少し誤解が溶けたような気がします。ワールドカフェ形式のグループワークは新鮮で、いろんなグループでより沢山の意見を聞き、発表することができ良かったです。

IV. 看護研究の基礎

○平成 28 年 9 月 15 日（木）看護研究の進め方①



<受講生の学び>

- レジメやパワーポイントを使用し、先生から細かく説明していただいたので、具体的でわかりやすかったです。学生さんの研究がすばらしかったです。
- 看護研究は看護の質の向上につながると思ってはいたが、動機が弱くもろかった自分がいました。受講を通して、現在、共同研究者として頑張っていますが、自身も研究に取り組み看護質の向上が図れるよう、還元できるよう頑張ります。
- 改めて研究とは・・・と説明していただき、頭では納得できた。
- 看護研究の過程や、研究のデザインについて知ることができました。
- 曖昧になっていた用語の意味や研究の概要を復習することができました。実際の研究を見せていただくことで、さらにわかりやすく学ぶことができました。
- 研究と聞くと苦手意識しかなかったが、ちょっとだけやれるような気持ちになれた。
- 看護研究の基礎がわかり、根拠を明らかにする必要性が理解できました。文献の必要性や科学的・理論的に探究していくという事は難しいですが、勉強しながら頑張りたいと思います。

○平成 28 年 9 月 15 日（木）看護研究の進め方②



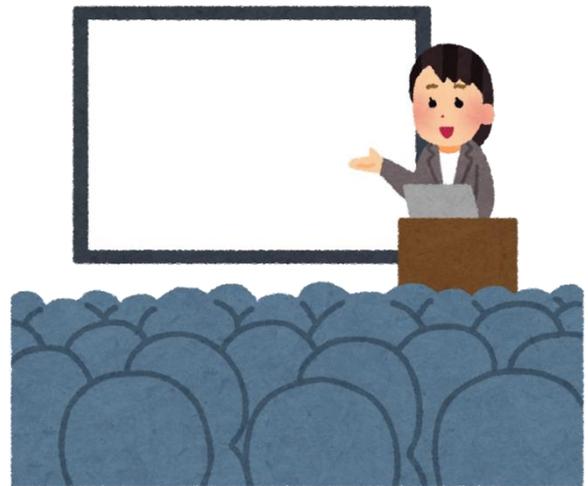
<受講生の学び>

- 文献の必要性が理解できました。パソコンを使用し、文献検索できてよかったです。まだ、時間が足りず、家でもやってきたいです。パソコンの操作も丁寧に教えていただき、ありがとうございました。
- 研修が進むごとに、自分のやりたい研究のイメージが具体的になりました。文献検索に入るとさらに深まり、背景を考えながら行うことができた。これから、計画書作成に向けて頑張れそうな気になりました。
- 具体的な文献検索方法や、コツを教えていただけだったので、勉強になりました。また、実際に検索の時間を設けていただき、先生がいらっしゃる元で安心してできました。
- 研究の目的・テーマが決定し、文献を検索してみると、類似した研究集録がいくつかあり、想定されることが絞られ、文献を読みながら苦手意識が少し薄らぎ、やってみようという気持ちに変わった。
- 順番立てて研究を進められるイメージができた。文献検索の重要性を痛感する。
- 具体的でわかりやすい例えもあり、研究がより身近に感じられました。自分のやりたい研究で、何を伝えたいかもモヤモヤしていましたが、どこに視点をおきたいかが見つかりました。研究に前向きに取り組めそうです。



<受講生の学び>

- 講義は集中して聞けました。例を出しながら話していただけたので、良かったです。全部ではないですが、今まで、訳のわからない研究の本を読めたぞ！！という気持ちになりました。
- 難しい内容でしたが、知識として必要な部分を知ることができ、良かったです。質的研究を進めるにも、自分自身が様々な文献を読み考え、自分の研究に活かすことも重要だと再認識できました。どういう研究をすれば自分が抱えている疑問が解決されるのか方法をじっくり考えたいと思います。
- 前回、自分の研究テーマを絞り、今日の講義を受け、今後の研究の進め方についてイメージしながら聞けました。これからやってみたいこと、計画について、ちょっとだけポジティブに考えられたと思います。
- 難しいイメージでしたが、先生がわかりやすく講義してくださったので良かったです。インタビューの仕方・聞き方次第で変わるし、答えてくれる人も答えやすいように等、考えなくてはいけないんだな～と改めて思った。
- 内容が濃く覚えられたか不安ですが、研究の技法を学び、今後の看護研究や計画書に活かしていきたいです。とにかく、文献を選び読み込むことが大切で、そこで語彙力や表現力が身に付くと思うので、とにかく読みます。



<受講生の学び>

- 量的研究の概要について学ぶことができた。実際の研究事例をかみくだいて説明していただくことで、研究の大切なポイントがわかりました。
- 研究デザインについての研修が終わり、いよいよ自分のやりたい事がイメージできてきました。が、やはり、まだ不安だらけですが、先生方のアドバイスを受けられればできそうな気もしてきました。
- 調査研究は、質問紙でどんなことを聞くのかがポイントになるのだと思った。実験研究は、条件を詳しく細かく設定するのが重要であることがわかりました。
- プロセスから調査方法まで何となくポイントをおさえることはできたと思う。
- 研究の枠組みをするのに、～法にのっとり・・・～を使用・利用して・・・と、記入できそうな気分にはなった。文献を読もうと、これほど思ったことは今までなかった。（まだまだ理解不足です）
- 質と量では、研究の内容や手法も少し違い、それがわかるようになって良かったです。

○平成 28 年 9 月 28 日（水）・29 日（木）研究計画の作成と発表のルール



<受講生の学び>

- 研究について講義していただき、また、実際計画書記入・発表できて良かった。講師の先生方や受講者さんからも沢山意見をいただけたので、参考にしながら研究を深めていきたいと感じました。
- 何はともあれ、無事研究計画書を完成させることができて良かったです。久しぶりの頭をつかう作業と、発表でクタクタですが、やりとげた達成感があります。この研究を、できたら実現したいと思える様になりました。ずっと、気が重かった看護研究でしたが、アドバイスをもらい、一人でも計画できた事に自信を持ってました。
- 研究計画書に自分の思い描いていることを言葉にしてかくという作業を通して思考の整理ができました。また、先生方・受講者との意見交換の中で、アプローチの方法が様々できてとても参考になりました。
- 一番苦労した時間だったが、個別に指導していただいたこともあり、ここ数日の講義内容を見返しながら集中して行えたので、研究に対する苦手意識も軽減された。また、そのことで以前よりずっと研究に関して知識を得ることができ、発表を通して先生方からアドバイスしていただいたことでも、一つの研究動機がいろんな研究の方向性をも考えられるようになることがわかり、興味を持つことができた。